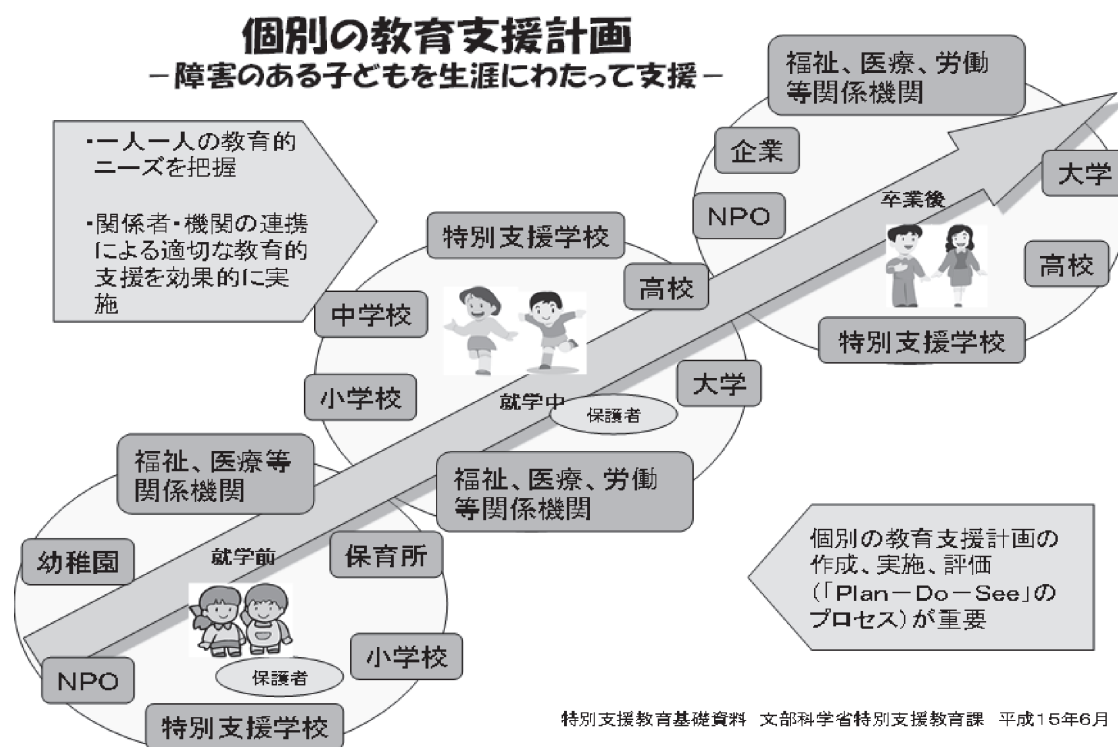


## 第3章3 「個別の教育支援計画」の活用と進路指導の充実

一貫した指導・支援をするためには「個別の教育支援計画」を作成し、関係諸機関との連携を横に広げ縦にもつなげていくことが大切です。将来「なりたい自分」になるためには、キャリア教育の視点で、いかに今の生活を大切に考え充実させるかが重要です。

### (1) 横を広げる ～福祉・医療・労働等との横の連携～

子どもがより豊かな生活を送り、将来の自立や社会参加につながる力をつけていく支援をするためには、学校と保護者が適切な情報を共有し、互いに協力しながら取り組んでいく必要があります。また、教育のみならず、家庭及び地域、福祉、医療、労働などとの連携は大切です。そのためには、個々のニーズに応じた支援の目的や内容により関係諸機関との連携を広げ支援会議を行い、子どもの姿や課題を共通理解しましょう。そして、その子が生活する中で「個々の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し、豊かな生活を送るために必要なこと」を視点にして支援目標を設定しましょう。さらに、支援目標に対し、学校、保護者、その他関係機関も含めて、だれがどんな支援ができそうであるかを検討し、「個別の教育支援計画」を作成していきましょう。



### (2) 縦に繋ぐ ～幼保小中高の縦の連携～

#### ア まず担任自身がたくさんの情報を得る

保護者や子どもより先に、自分で進学先や地域の情報を得ておきましょう。

#### イ 早め早めの情報提供

就学相談はまず情報提供から始まります。本人や保護者の気持ちが決まるには時間がかかるので、遅くとも実際に就学先・進学先を決める前年度から始めます。

- ・運動会や文化祭・学校祭など、学校が開放されている折の見学
- ・対象となりそうな学校や学級の見学や体験入学

本人や保護者にとって、たくさん情報を得て判断材料を増やすことが大切です。

## ウ 意味ある体験入学に

体験入学は、本人や保護者だけでなく、受け入れる側にとっても大切です。本人や保護者と良好な関係を結び、その子の様子を知ることにより受け入れ準備を進めやすくしたりすることにつながります。

小学校から中学校（中学部）、中学校（中学部）から高等学校（高等部）に見学や体験入学に行くときには、本人にも事前学習として何を確認してくるか、質問や見学の観点を確認してから向かうようにします。また、終了後は、見学内容をまとめる・感想を話し合う・お礼状を書くなどの活動を通して、体験した内容をきちんと本人が確認することにより、より意味のある体験入学になります。

## エ プレ支援シートの活用

一貫した支援を行っていくために、幼稚園・保育所から小学校、小学校から中学校（中学部）、中学校から高等学校（高等部）、高等学校（高等部）から進路先という、移行期の引き継ぎが重要になります。そのためには「個別の教育支援計画」（特別支援教育教育課程学習手引書 特別支援学校編 187P参照）や「プレ支援シート」を活用しましょう。

### プレ支援シート B（小→中、中→高 用）

記入者所属・氏名： \_\_\_\_\_ 記入日：平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

[ _____ ] 学校 → [ _____ ] 学校	
ふりがな	現在かかっている医療機関 医院・病院 先生
氏名	障害の状況 (障害名)
本人の特徴（性格、行動、得意なこと など）	
新しい環境に慣れるまで時間がかかるが、親しい人とは明るく会話をすることができる。大きな音は苦手だが、漢字練習やパソコンは得意で集中して取り組むことができる。行事には通常の学級集団の一員として落ち着いて参加することができた。	
本人の願い	保護者の願い
勉強をがんばりたい。(漢字・英語)	社会に出て役立つ基礎的な力と楽しい思い出を大切に育てたい。
これまでの取り組み	
今後必要と思われる支援（記入項目にチェック）	
学習の支援	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算 <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級では、課題が明確になると一定の時間は集中して課題に取り組むことができる。これだけやったら終わりという目標が分かると集中できる。</li> <li>・生活単元学習では、新しい素材に慣れるまでに時間がかかった。</li> <li>・体育・音楽・学級活動は内容を検討して通常の学級に参加した。</li> </ul>
行動の支援	<input type="checkbox"/> 声かけ(指示) <input type="checkbox"/> 集中 <input type="checkbox"/> こだわり <input type="checkbox"/> 忘れ物 <input type="checkbox"/> 当番活動 <input type="checkbox"/> 感情の制御 <input type="checkbox"/> 教室の移動 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任制で、多くの職員がかかわることになるので、慣れるまで時間がかかると思われる。導入にはプリントでの学習をするなど、本人が取り組みやすい課題で少しずつ関係を作っていききたい。</li> <li>・視覚情報を活用した教材の準備。</li> </ul>
対人関係の支援	<input type="checkbox"/> 人への関心 <input type="checkbox"/> 相手の気持ちの理解 <input type="checkbox"/> 言葉でのやりとり <input type="checkbox"/> グループ活動 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音に対する過敏さは、全職員で共通理解しておきたい。</li> <li>・本人がわかりやすい方法で1日の予定や1時間の活動の予定を伝えていきたい。</li> <li>・どうしても苦手なことが出てきた場合の逃げ場所も確保しておきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、担当職員との関係づくりを大切に。教師が仲立ちになりながら、友達との会話を広げていった。親しい友だちとは、一問一答形式の会話ができる。</li> <li>・不安な状況では大きな声を出して逃げてしまうことがあるので、周囲の理解を図るよう、保護者とも相談して本人の特性を通常の学級にて話した。</li> </ul>	

プレ支援シートの枠は長野県教育委員会のホームページ『特別支援教育シリーズ第3集』からダウンロードできます。

## オ 活用例

- ・ 小学校への入学時に、就学までの療育情報や幼稚園・保育所での生活の様子を知り、学校での支援体制づくりの参考にする。
- ・ 中学校（中学部）、高等学校（高等部）への進学時に、相手校に提出したり、特別支援教育コーディネーターを中心に双方の学校関係者が集まって支援会議を行ったりして、その子の特性、それまでの支援の経過を確実に伝え、支援をつなげていく。
- ・ 就労時に「個別の移行支援計画」を作成し、卒業後にも支援が継続されるよう配慮する。

### 【よりよい支援を行うためのチェックリスト】

- 「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」を作成していますか
- 保護者や関係諸機関を交えての支援会議を実施していますか
- 地域の高等学校や特別支援学校について情報を持っていますか
- 地域の高等学校や特別支援学校について情報を早期から計画的に提供していますか
- どんな進路に進みたいかや、望んでいる進路を実現するために、どのような力をつけなくてはならないか、定期的に本人や保護者と共に考える機会をとっていますか

### （3）小学校段階からキャリア教育の視点を持って

子どもがより豊かな生活を送り、将来の自立や社会参加につながる力をつけていく支援をするためには、小学校段階からキャリア教育の視点を持った取組が必要になります。

小学校：社会性、自主性・自律性、関心・意欲などを養う

学校生活の中で当番活動を充実させる  
家庭でのお手伝いへの取り組みを大切にする  
身の周りの働いている人に意識を向ける



中学校：社会における役割や将来の生き方などを考え、計画的に取り組む態度を養う

校内での取組…生徒会活動など  
校外での体験…職場体験学習 ボランティア活動



- 子どもの自尊感情を高めるためにも、意図的に「他の人のために役立っているという実感がもてるような活動」に特別支援学級でも取り組むことは大変意味があります。

また、働く自分になるために、どのような高校生活を送りたいかを考える機会を設けたり、中学校卒業後にどのような進路先があるかという情報を早期から提供したりし、そのために在学中につけていく必要がある力を本人や保護者と確認しながら、計画的に力をつけるよう時間をかけて取り組む必要があります。

#### (4) 進路指導の充実

自分の性格や長所・短所・興味・関心などを理解し、自分の特性に合う将来の職業や生活などをできるだけ具体的に考え、長期的展望に立った目標を早い時期から設定できるようにします。生徒自身が主体的に進路選択できるようにするために、生徒自身と保護者との進路相談をできるだけ早期から進めることが大切です。

##### 【進路指導の進め方の例】

###### ○小学校

- ・近隣の中学校や特別支援学校の情報を本人や保護者に提供する。
- ・文化祭・学校祭など実際に学校の雰囲気をつかめる機会に参加するように促す。
- ・保護者会に中学校の特別支援学級の担任などを招き、中学校の生活について話を聞く。
- ・近隣の中学卒業後の進路先について、本人や保護者に情報を提供する。
- ・小中学校と高校など学校の違いについて、本人や保護者に情報を提供する。



###### ○中学1年

- ・上級生の進路決定の過程に意識が向くように働きかける。
- ・近隣の高校や特別支援学校高等部の情報を本人や保護者に提供する。
- ・文化祭・学校祭など、実際に学校の雰囲気をつかめる機会に参加するように促す。
- ・授業や学校生活において本人の実力が出せるよう合理的配慮の実績を積み重ねる。

進路先での生活にうまく適応し力をつけて卒業できるよう、学力・対人関係の力・基本的な生活能力・移動する力など、必要な力を中学校3年間でつけるよう、本人や保護者と随時教育課題について確認し取り組みます。



###### ○中学2年

- ・自分の得意なところ、苦手なところなど、自己理解を深める。
- ・進路についてより具体的に考える機会を持つ。
- ・学校の雰囲気や特色を知るため、特別支援学校の体験入学などの参加を促す。
- ・自分の適性に合うかどうか判断できるように個別に話し合う機会を計画的に取る。
- ・学校の特徴だけでなく、実際に通学が可能なのか検討する。
- ・志望校で充実した学校生活を送るためには、残された中学校生活でどのような力をつけていかなければならないのか、保護者、特別支援学級担任、原学級担任で確認し、時間をかけ取り組めるようにし、周囲のアドバイスも聞き入れながら、自分の意思による進路決定を促す。
- ・「自分が望む将来の生活や職業に就くためにどんな選択が必要か」という視点から学校を選ぶように促す。
- ・担任と相談しながら就きたい職業についての調べ学習、職場見学、職場体験をする。
- ・中学校で実施してきた合理的配慮が志望校でもどの程度可能なのか相談を開始する。



### ○中学3年

- ・進路指導主事と連絡を取りつつ、原学級の進路指導より早めに動けるよう、特別支援学級担任が主体的に情報提供をする。
- ・家庭と密に連絡を取りながら本人が納得した上で進めていく。
- ・進路決定までの日程を年度当初に本人や保護者と確認する。
- ・福祉的サービスの利用を視野に入れ、必要に応じて療育手帳などの取得について本人や保護者に情報提供を行う。

進学先候補の選択にあたっては、本人の特性を考慮し、特別支援学級担任や原学級担任だけでなく、ときには特別支援教育コーディネーターも相談に入り、必要に応じて医療・福祉機関と連携を取りながら、学校見学を勧め、進学先の候補選びなどについて進路・教育相談を進めていきます。

### 【コラム】卒業後の生活をイメージするために ～ 担任者会と保護者会による取り組み ～

子どもが将来「なりたい自分」になるためには、本人の自覚と周りの理解と支援が大切になります。そのためには、中学3年になってからの進路指導ではなく、早くからの情報提供などが重要です。

A町での小学校2校・中学校・特別支援学校2校で実施している特別支援教育保護者会と小中学校合同の特別支援教育担任者会の取り組みを紹介します。

A町の特別支援教育保護者会と担任者会では親睦と共に、子どもたちが将来よりよい生活を送ることができることを目指して、小学生の段階から進路を意識した活動を取り入れています。

秋の親子遠足では、中学生と保護者によるグループホームや入所・通所施設、就労先や特別支援学校などの見学を行い、将来の進路を考えるための情報を得る機会としています。

また、年度末の総会では、担任者会と保護者会が卒業生や卒業生の保護者に、特別支援学校や定時制高校など、学校の先輩に卒業後の学校生活や現場実習、就職先を決めるときに考えたことについて話してもらう時間を取ることで、小学校段階から中学卒業後の生活をよりイメージできるようにしています。

特に、兄や姉のいない子どもや保護者にとっては、先輩の話聞く機会はとても意義深いものになります。

